

2026年6月12日
九電みらいエナジー株式会社
四国電力株式会社

環境省「地域共生型潮流発電事業モデル構築事業」に採択されました

— 潮流発電機の長期信頼性等を検証 —

九電みらいエナジー株式会社（本社：福岡市、代表取締役社長執行役員 三根浩二）と四国電力株式会社（本社：高松市、取締役社長 社長執行役員 宮本喜弘）は、環境省が公募した「令和8年度地域共生型潮流発電事業モデル構築事業」において、両社が共同提案した「海底固定型潮流発電機の長期信頼性検証事業」が採択されましたので、お知らせします。

潮流発電は、発電出力の予測性が高く、変動も小さい海洋エネルギーであり、海洋国である日本は、世界有数の開発ポテンシャルを有しています。本事業では、海底固定型潮流発電機を長期間運転し、設備の信頼性、保守性および経済性に関するデータを収集・検証するとともに、地域と共生する事業モデルの構築を図り、潮流発電の社会実装を目指します。

実証は長崎県五島市沖において、商用スケールの大型潮流発電機（1,100kW）を用い、3年間にわたり実施します。商用スケール機の国内初の運用実績を有する九電みらいエナジーと、四国周辺海域で海洋エネルギーの活用可能性を検討している四国電力が、それぞれの知見と強みを生かして、共同で取り組みます。

両社は今後、長期信頼性の検証を着実に進めるとともに、潮流発電の社会実装に向けた取り組みを推進してまいります。


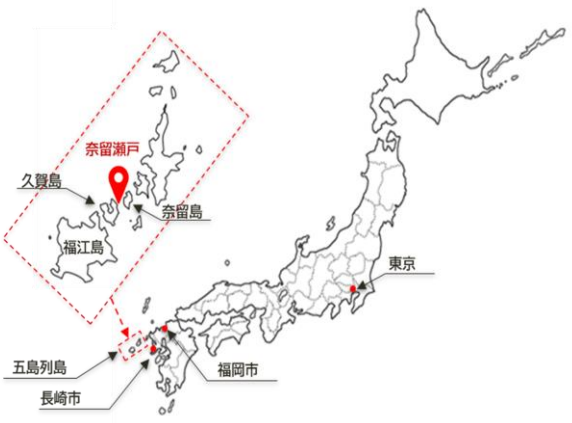
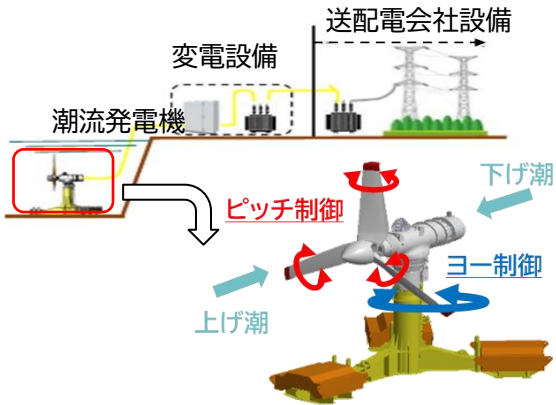
項目	主な内容
事業名称	令和8年度 地域共生型潮流発電事業モデル構築事業
採択区分	海底固定型潮流発電機の長期信頼性検証事業
実施場所	長崎県五島市沖 奈留瀬戸（奈留島と久賀島の間）
事業期間	令和8（2026）年度～令和10（2028）年度（予定）
主要設備	1,100kW海底固定型潮流発電機 1基
主な実証内容	<ul style="list-style-type: none">長期連続運転による発電効率・設備信頼性への影響把握海中環境における維持管理手法の高度化事業化判断に資するデータの収集・経済性評価

【本件のお問合せ先】

- 九電みらいエナジー株式会社 総務本部広報担当 津城 TEL：080-4465-7206
- 四国電力株式会社 広報部 報道グループ TEL：087-821-5061

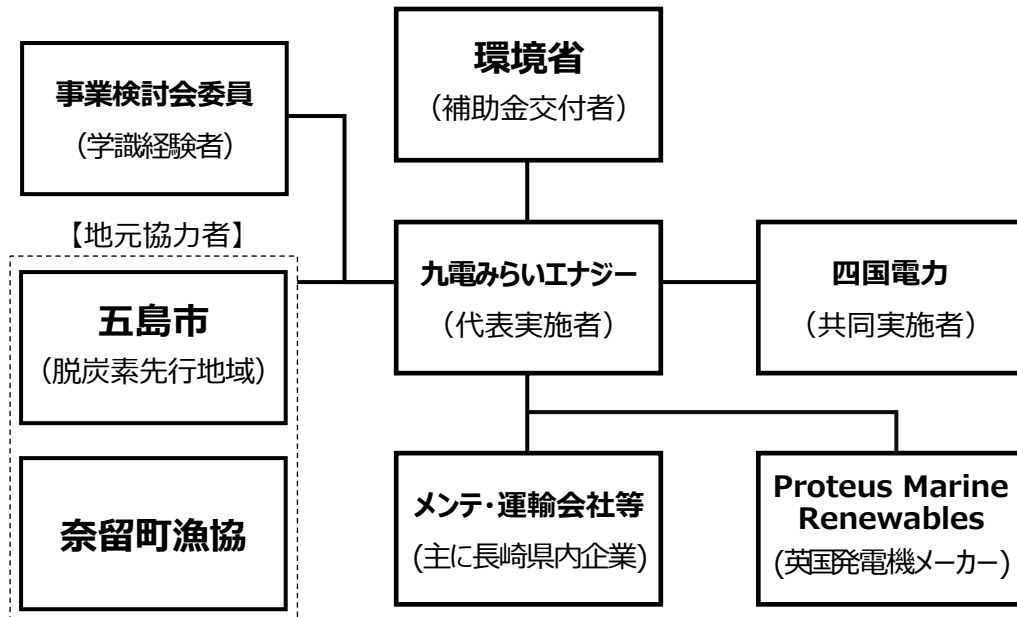
以上

■ 実証事業の概要

事業名称 及び 採択区分	環境省「令和8年度地域共生型潮流発電事業モデル構築事業」のうち「海底固定型潮流発電機の長期信頼性検証事業」												
目的	海底固定型潮流発電の導入から運用までの技術を確認し、地域と共生した潮流発電の事業モデルを構築することで、潮流発電の社会実装の加速化を目指す												
実施場所	<p>長崎県五島市沖奈留瀬戸※(久賀島と奈留島の間)</p>  												
実施項目	<ol style="list-style-type: none"> ① 長期信頼性・耐久性の検証 ② O&Mの最適化 ③ 季節変動等を踏まえた運転性能・リスク評価 ④ 海域適合性・ファーム化に向けた配置・性能評価 ⑤ 事業性・投資性評価 												
主要設備	 <table border="1" data-bbox="933 1429 1396 1747"> <tbody> <tr> <td>発電機出力</td> <td>1,100kW</td> </tr> <tr> <td>定格流速</td> <td>2.7m/s</td> </tr> <tr> <td>ロータ長</td> <td>18.4m</td> </tr> <tr> <td>全高</td> <td>23m</td> </tr> <tr> <td>重量</td> <td>約960t</td> </tr> <tr> <td>制御方法</td> <td>ヨー・ピッチ</td> </tr> </tbody> </table>	発電機出力	1,100kW	定格流速	2.7m/s	ロータ長	18.4m	全高	23m	重量	約960t	制御方法	ヨー・ピッチ
発電機出力	1,100kW												
定格流速	2.7m/s												
ロータ長	18.4m												
全高	23m												
重量	約960t												
制御方法	ヨー・ピッチ												
事業期間	令和8(2026)年度～令和10(2028)年度(予定)												

※ 一般に潮流発電には1 m/s以上の流速が必要だが、実証試験を行う五島市奈留瀬戸は3 m/s以上あり、国から海洋再生可能エネルギーの実証フィールドに選定されている。

■ 実施体制



九電みらいエナジー株式会社：事業全体管理、運用管理、維持管理手法の検証等

設立	2014年7月
所在地	福岡市中央区薬院三丁目2番23号 KMGビル
代表	代表取締役社長執行役員 三根 浩二 (みね こうじ)
事業内容	再生可能エネルギー発電事業
その他	九州電力株式会社の100%子会社

四国電力株式会社：事業支援、事業性評価等

設立	1951年5月
所在地	高松市丸の内2番5号
代表	取締役社長 社長執行役員 宮本 喜弘 (みやもと よしひろ)
事業内容	電気事業ほか

■ スケジュール（予定）

	2026年度	2027年度	2028年度
① 長期信頼性・耐久性の実証	発電データの収集・分析 → 開放点検		
② O & Mの最適化	運転状態の点検および点検結果の分析・評価 → 開放点検		
③ 季節変動等を踏まえた 運転性能・リスク評価	海域データの収集・分析・評価		
④ 海域適合性・ファーム化に 向けた配置・性能評価	予測手法の検討、ファーム化に向けた配置及び性能評価		
⑤ 事業性・投資性評価	評価手法確立	実測データによる補正	運転実績評価

(参考) 環境省 潮流発電実証事業に関する過去のお知らせ

- 令和元(2019)年10月31日：「潮流発電技術実用化推進事業に係るEPC契約および協力協定の締結について」は[こちら](#)
- 令和3(2021)年1月15日：「『潮流発電技術実用化推進事業』発電機設置工事の開始について」は[こちら](#)
- 令和3(2021)年1月25日：「『潮流発電技術実用化推進事業』発電機の設置工事完了・発電開始について」は[こちら](#)
- 令和3(2021)年3月15日：「『潮流発電技術実用化推進事業』潮流発電機・キャラクター命名証の授与式を行いました」は[こちら](#)
- 令和3(2021)年5月20日：「日本で初めて大型潮流発電機が国の審査に合格しました」は[こちら](#)
- 令和4(2022)年3月14日：「環境省『令和4年度潮流発電による地域の脱炭素化モデル構築事業』に採択されました」は[こちら](#)
- 令和7(2025)年2月4日：「国内初の商用スケール大型潮流発電機設置工事の開始について」は[こちら](#)
- 令和7(2025)年5月26日：「商用スケール大型潮流発電機の実証運転を開始」は[こちら](#)

以上